

高いところ、低いところ、目線を変えてみよう

桜の名所に花見客はつきものだ。花見客以外にも、入学式など新生活が始まる季節でもあり、うまく人々の様子を写真に取り込むことで、春らしい季節感を表現できる。そこで、レンズの広角、望遠だけでなく、カメラを構える時の高さも意識してみよう。

「ハイアングル」撮影は、桜並木の下を歩き交う人々を捉えるのに適している。脚立があれば、便利なのだが、用意できないことも多いだろう。だが、そんな時でもあきらめずに、あたりを見回してみよう。ベンチや階段など、高い目線で撮れるポイントはたくさんあるはずだ①。

少しでも高いところへ登って、手を一杯上へ伸ばし、ファインダーを覗かないでシャッターを切って見るのも面白い。デジカメならば、すぐに画像が確認できるし、撮り直しもできる。すごいアングルを発見できるかもしれない。

逆に、写真に人を入れたくない時は、「ローアングル」撮影がお勧めだ。極端に低く地面すれすれにカメラを構え、手前に芝生や花など

① できるだけ高い位置を探そう



歩道橋の階段があったのでちょうど目線の高さに満開の桜を捉えることができた。歩道を行き交う人々は適度にボケてくれるので目障りにはならないだろう(1/500秒/F5.6/ISO100/10mm(157ミリ相当))。

② ローアングルでは前ボケを活用



奥にある桜にピントを合わせて、手前の花畑をぼかすことで、人を隠すように撮っている(1/180秒/F6.7/ISO100/105ミリ(157ミリ相当))。

③ さまざまな桜を狙ってみよう



池の水面に花びらが散っていく。満開の桜だけではなく、こうした散り際の桜も風情がある(1/180秒/F6.7/ISO100/105ミリ(157ミリ相当))。

を前ボケに入れてしまえば、どんなに花見客でごった返していても、人一人いないネイチャーフォトに仕上げることが可能だ②。最近ではライブビュー機能を搭載したデジタル一眼が増え、アングルを変えた撮影が行いやすくなった。また、これ以外にも桜は魅力的な被写体なので、いろんな視線で捉えてみよう③。

桜の色を桜らしく表現してみよう

多くの人は、「桜＝ピンク色」と考えている。だが、実際のソメイヨシノは、ピンク色というよりも「白色」に近い。その色を忠実に再現すると、なんとなくインパクトに欠けた地味な写真になってしまうことが多い。

そもそもデジタルカメラで記録される画像は、カメラ内の画像処理エンジンで画像処理された画像だ。だから、カメラを変えると色味も変わってしまうことが多い。いずれにしても絶対的な正解はないので、試行錯誤もやむを得ないだろう。記録写真なら別に、作品作りをするのなら、自分の印象に残っている桜に近づけるように、画像処理してみよう。

画像処理の方法としては、1つはデジカメの色補正、マニュアルホワイトバランスなどを調整する方法がある。だが、この方法は、屋外で小さな液晶モニタを見ながら行うことになり、手軽にできるようで、意外と難しい。

それくらいならば、色味の微調整はあとからMacで行ったほうが、よほど楽だし、うまくいくだろう。ここでは、たいいていの画像処理ソフトが備えているトーンカーブを調整する方法を解説する。トーンカーブを使った調整は、RGB各チャンネルの色の成分を増減することで、カラーコントロールすることになる①。

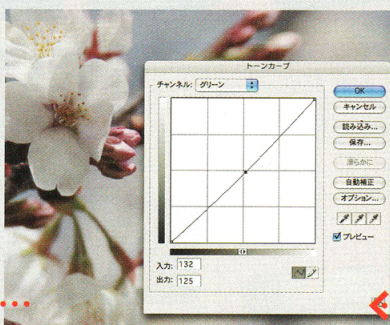
まず、フォトショップなどの画像処理ソフトで画像を開き、トーンカーブの調整画面を表示する。ここで、グリーン(G)のチャンネルを選択し、グリーンを抑え気味にしてみよう。すると、マゼンタ色が強調されて、桜の花びらはピンク色に、さらに背景の空が青く表現され、多くの人が持つ桜のイメージになる。

なお、レタッチによる画質劣化が気になる人は、RAWで撮影しておき、現像時にこうした調整を行えば、画質劣化は防げる。

① トーンカーブを調整して、桜の色を桜らしく



トーンカーブをちょっといじるだけでも随分と見えるが、ここではさらに彩度を上げて背景の青空も強調している。



トーンカーブのグリーン(G)チャンネルでグリーンを抑え気味にすると、マゼンタが強調される。



色が薄く見栄えのしない写真だが、カメラが悪いわけではない。もとの色に忠実に色再現するようになるのだ。